

ひめまつ

須賀学園教育会館落成記念特別号

59



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ 目次 (第五十九号)

表紙……青柳友加里 題字……石川木魚 写真……写真部・編集委員会

グラフ 「学園の四季」

随想 戦後六十年―学校と私……………校長 須賀 淳……………1

論説 地域金融と新たな共生を……………副校長 須賀 英之……………5

特集……………8

須賀学園教育会館がOPEN! ～明日のリーダーを育てる、学園新時代!～
那須大学のニューフェイス ～宇都宮シティキャンパス二〇〇五年開校!～
須賀学園教育会館落成記念公開市民講座「源氏物語の世界」を開講
二〇〇五年四月 宇都宮短期大学音楽科に三つの専攻コースを新設!
平成十六年度 高等学校交通問題地域連絡協議会活動報告
明るく活発な生徒会を目指して(新生徒会長に就任して)……………越 沼 梓……………17
素晴らしい宝物たちを胸に(任期を終えて思うこと)……………羽 鳥 可奈子……………18

〈声〉 ～特集・須賀学園教育会館を利用して～……………19

【教育会館・2F・生徒自習室】三年二組・光本 洋之 【教育会館・1F・生徒ホール】二年一組・野口 理沙
【教育会館・2F・ケルン学習室】二年二組・山口 恵里子 【教育会館・第二グラウンド】二年五組・山形 秀幸
【教育会館・2F・生徒自習室】二年六組・箕輪 一馬 【教育会館・1F・生徒ホール】一年十組・松生 武尊
憧れの宇都大附属高校で学んで……………三年 四組 鈴木 絵美子
「高校クッキング選手権」に出場して……………三年二十三組 伊藤 玲奈

*心に強く響くもの(校内読書感想文コンクール入賞作品)……………24

【第三学年の部】 校長賞……………

一位 ジャック・ドワイヨン・著「ポネット」を読んで……………五組 大森 亜美
二位 乙武洋匡・著「五体不満足」を読んで……………四組 平岩 彩
三位 アレックス・ロビラフ・エルナンド・トマス・デ・ベス・著「グッドラック」を読んで……………五組 谷本 瑛香

【第二学年の部】 校長賞……………

一位 池田晶子・著「十四歳からの哲学」を読んで……………一組 普天間 ゆき
二位 小川洋子・著「博士の愛した数式」を読んで……………十組 石井 彩
三位 五條 瑛・著「スリーアゲーツ三つの瑪瑙」を読んで……………八組 坂本 典子

【第一学年の部】 校長賞……………

一位 遠藤周作・著「海と毒薬」を読んで……………二組 中野 初子
二位 佐藤律子・著「種まく子供たち」を読んで……………十七組 笹崎 彩奈
三位 池澤夏樹・著「イラクの小さな橋を渡って」を読んで……………十一組 中里 瞳

□作品集

【税の作文】

税と福祉のつながり(宇都宮税務署管内租税教室推進協議会会長賞)

三年二十一組 黒崎美保

税について思う(宇都宮税務署長賞)

一年十八組 渋谷蓉子

【税の百人一首】

高校生の部

税務署長賞

二年五組 佐藤文恵

【第十三回】「とちぎ教育の日」提言コンクール 優秀賞

「私の大好きな授業」

二年五組 禹 誠美

【自由作文】

「恋人」——創作・続「桃花源記」——

三年十七組 小島あゆみ

★あとらんだむ

一年間の反省と二年生へ向けての抱負

旧一年十五組 久保美香

二年間の反省と最上級生になる抱負

旧一年二十組 齋藤 慎

旧二年一組 近藤 あすみ

旧二年五組 宮本 裕香

旧二年八組 鈴木 結加里

♪関西・東京臨海副都心・那須の旅

——震災被害者であるおじいさんから——

一生の思い出——修学旅行記——

三年四組 川下 亜沙美

——修学旅行の思い出——

三年五組 赤沢 佳子

一日旅行にて——那須へ——

三年二十一組 金丸 亜希子

「私再発見の旅」——那須りんどう湖への一日旅行——

一年一組 津久井 彩子

一年二十一組 大町 奈保

益子 綾乃

招待席

科学雑考

「夢の実現」

非常勤講師(理科) 小林 信介

非常勤講師(理科) 高橋 捷之

◇わがホームルームの紹介

三年・二年・一年

◆委員会・クラブ報告

環境美化・交通安全・風紀・編集

インターアクト・茶道・華道・服飾手芸・理科・囲碁将棋・剣道・水泳・卓球・女子ソフトテニス・男子ソフトテニス

サッカー・女子バレー・新体操・男子バレー・男子バスケット・女子バスケット・プラスバンド

★学園告知板

須賀英之・副校長先生が宇都宮短期大学の新学長に!

在仏の草月流コーデイナー(本校卒)がトークショー

普通科二・三年生の希望者が、夏季ブリティッシュ・ヒルズ語学研修に参加!

男子バスケット部の岩崎君が、日韓交流の遠征試合に!

NZマヌカウ市への派遣高校生が帰国!

フランスからロータリー留学生が来校!

生活教養科三年生が「とちぎフレッシュメイト」の冬服をデザイン!

本校調理科卒業生・直井朋之さんが、今秋から「味の外交官」に!

饗庭史祥君が、将棋で栃木県No.1に!

栃木県初!音楽科三年の谷田部君が、大阪国際音楽コンクールで第二位に!

本校を会場にスロースポーツ推進事業「食談会」を開催!

宇都宮短期大学附属中学・高等学校

校歌

作詞 菅原 徳次郎
作曲 野原 幸夫

ふに たわ のに たしー かけ ねれ をる はひ め かま につ あこ おまー ぎつ
 まか なわ びら のぬ みみ ちさ すお じは まち さよ きよ くろ あず れよ とど
 かか たた みに ちいー かわ いい てて いそ しし みみ はは げけ むむ
 おま しな えび のに 二 わわ こそ げけ にに とめ うで とた けけ れれ
 ああ わわ れれ とめ うで とた 二 のの まま なな びび やや

校歌

一 一 荒の高嶺を 遙かに仰ぎ
 学びの道筋 まさきくあれと
 かたみに誓いて いそしみ励む
 教への庭こそ げに尊けれ
 あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松
 変わらぬ操は 千代万代と
 かたみに祝いて いそしみ励む
 学びの庭こそ げに芽出度けれ
 あわれ芽出度 この学びや



とちぎ地産地消県民運動キャッチフレーズ大賞を受賞!
 「小麦フェスタ『宇都宮』」で生活教養科の二年生が特賞に!
 お肉の料理コンクールで、生活教養科三年生が特賞に!
 調理科三年生が、新・高校タッキング選手権「味部門」で第一位に!

教育実習生、母校の教壇に
 慶應義塾大学 荒川和洋
 芝浦工業大学 中山 聡
 宇都宮短期大学 阿久澤 政行

附属中コーナー

この一年間のおもな活躍 各種コンクール入賞・書道展作品
 クラス紹介・行事紹介・校内読書感想文コンクール・校内自由作文コンクール・俳句選
 世界平和と国連(国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト)全国大会 金賞受賞作品 一年一組 松本 紗歩
 「環境にやさしい社会」を目指して(少年の主張河宇地区大会 優良賞作品) 三年二組 山下 結華
 各種「善行賞」を受賞
 写真で見る中学校生活

那須大学・宇都宮短大(人間福祉学科)コーナー

◎平成十六年度生徒会報告
 ◇就職状況
 ◇編集後記
 編集委員長 森 美樹

学園の四季



▲モーツァルト作曲レクイエムに感動！
 昨年(二月十一日)宇短大特別定期演奏会を開催！
 指揮、宇短大・宇短大副学長・田淵進先生の
 により、栃木県総合文化センターメインホールにて開催。
 ソリストは、本校音楽科卒業生の左から森 朱美さん、
 城守 香さん、川久保博史さん。



▶十月十九日(火)記念講堂大ホールで、
 コントラバス奏者のマウリツィ・アン
 ガリータ氏とギタリストのディオニー
 氏も加わってのアンサンブル。



生活教養科3年生が
 「ふるさと栃木フェア2004」に出演
 10月23日(土)マロニエプラザで恒例の
 ファッションショーをご披露しました。



▲「われら地球家族」(東花みずきフェスタ)
 生活教養科の生徒がファッションショー！
 四月二十五日(日)のコスチューム・パレードでは、
 四五〇〇名を超える皆さまから盛大な拍手をい
 いただきました。



▲1,000名を超える新1年生を迎えて入学式を挙
 行 4月9日(金)総合体育館メインアリーナで、新
 入学生徒・保護者の皆さまに式辞を述べられる
 須賀津校長先生。

一人は
 一校を
 代表
 する

昭和四十年六月から全教室に掲げられ
 である、本校の生徒生活目標です。

第二代理事長・校長であった須賀友正
 先生は、その意味を「生徒の一人一人が
 それぞれに本校生徒としての価値を知っ
 て、その価値を自分で見捨ててはいけな
 いと言う」こと、と『ひめまつ』第三号
 (昭和二十四年二月発行)の中で述べて
 います。

(書は、本校教諭でもあった栃木県を
 代表する書家・石川木魚先生)

須賀学園 教育会館落成 記念 学校祭を開催!



▲お茶席「睦庵」で極やしの一服を!
(茶道部)



都宮短期大学附属中学・高等学校



▲アカベラのディズニーメドレーで沸かせてくれたのは、3の8「セブン・ミニーマイス」の皆さん。

▲宇短大人間福祉学科幼児福祉専攻の皆さまによるエプロンショー



▲1台ウン?億の燃料電池車の前で...



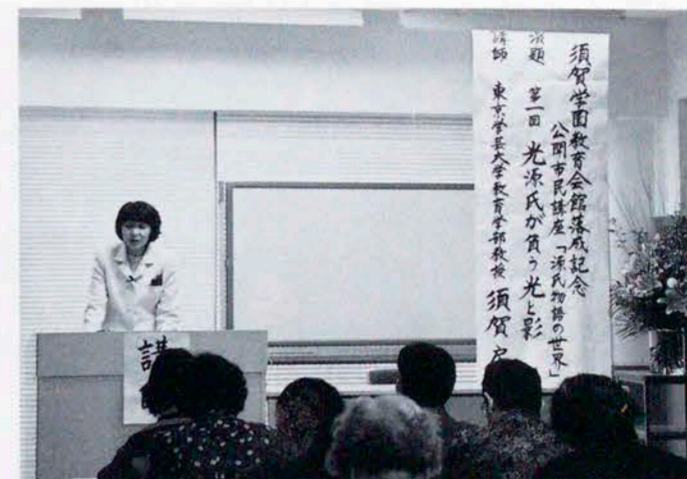
▲花?のサッカー部応援団が試合を盛り上げます。(第2グラウンド)
▲サッカー招待試合で、鹿沼東高校チームと競り合う本校イレブン!

須賀学園教育会館落成と本学園創立104周年を記念した中学・高校合同の学校祭が、11月6日(土)と7日(日)の2日間にわたり、5,000名をこえる中高生や一般のお客様をお迎えして盛大に行われました。

まず、校舎内の第1会場では、各学科・委員会・クラブ、普通科各クラス、系列校の展示と実演。第2会場の教育会館では、セミナー室を一般開放しての公開市民講座や学校見学会、生徒ホールでの調理科レストラン、そして前庭特設ステージでの各種コンサートや調理科後援会による餅つき、東京ガス協賛の燃料電池車展示。第2グラウンドではサッカー部の招待試合も行われました。



—野外特設ステージでのギター・アカベラコンサートで熱唱!



▲公開市民講座：演題は「源氏物語の世界」
講師は東京学芸大学教育学部教授の須賀房江先生。
(301セミナー室)

須賀栄子記念講堂大ホールでは、生活教養科のファッションショーや音楽科のオペレッタ、演劇などと、同小ホールでの家庭クラブ研究発表や英語スピーチ。第4会場・総合体育館メインアリーナでの男女バレーボール部招待試合、そして中庭プロムナード・第5会場と第1グラウンド・第6会場の屋台村等、見所が盛りだくさんの思い出に残る楽しい2日間になりました。



▲一足早くサンタも登場した屋台村。(中庭プロムナード)



▲調理科レストランでは、音楽科生徒によるクワルテットの生演奏も。(教育会館1F・生徒ホール)

随想

戦後六十年 — 学校と私 —

校長 須賀 淳

あつし



校長近影 一 下野新聞社提供

私は、自分が体験したこの昭和の歴史、とくに昭和二十年までの戦争中の昭和史に興味が高く、私の書棚は昭和史に関する歴史書、戦記、小説、評伝、評論の類で溢れています。またビデオ、DVD、

今年(平成十七年)は、太平洋戦争が終って六十年と
いうことで、テレビや雑誌などでは戦後六十年の特集
が生まれ、多くの人々の関心を集めています。しかし
私にとっては、戦後六十年というよりは、昭和八十年
という思いの方が強い気がします。というのも、私の
満年齢と昭和の年号が同じで、まさに戦前、戦中、戦
後の八十年を生きてきたからです。

平成16年度生徒総会



議長 議長 会長 副会長 会計

▲平成16年度生徒総会を開会 (6月1日(火)・須賀栄子記念講堂大ホール)



▲調理科後援会の保護者の皆さまによる餅つきコーナー (学校祭で・教育会館前庭)

生徒会
行事あれこれ



▲音楽科のオペレッタ「眠れる森の美女」から。(学校祭で・須賀栄子記念講堂大ホール)



▲青空のもと、スポーツフェスティバル!! SPORTS FESTIVAL IN UTMFJH 7月3日(土) 第1学期最後の祭典となる「スポーツフェスティバル」を実施。(第2グラウンドでサッカーの試合)

生徒会役員

 副会長 河原 愛	 副会長 津布久有利枝	 会長 越 沼 梓
 庶務 日比野由貴絵	 庶務 栗 田 一 樹	 会計 加 藤 佑 季
 議長団 田 谷 駿 光	 議長団 船 橋 未 樹	 議長団 上 野 唯
		 会計 鈴 木 春 香
		 議長団 小 西 恵 理

CD、カセットテープなどの映像、音響ソフトも並んでいます。といつても素人の趣味ですから、専門家になれるわけはありませんが、昭和史に興味のある生徒の皆さんと昭和史のゼミでも開きたい気持ちです。(うちの孫に声をかけてみたがあまり興味はなさそう)

私は、大正十三年(一九二四)の生まれです。大正時代は年号は大正十五年までですから、今や大正生まれは数少ない存在ですし、さきの戦争で一番多く死んだ世代です。大正といえは関東大震災です。昨年の秋には新潟県中越地震という震災があり、この冬は連日の大雪で、被災地の大変な様子がテレビなどで大きく報じられています。ところで関東大震災は大正十二年(一九二三)の九月一日ですから、私が生まれる前の年です。私の父(前校長)は東京にいてこの大震災に遭い、汽車で三日かけて宇都宮に戻ってきたという体験談をよくきかされました。母は宇都宮にいたので、夜には東京の方の空が赤く染まっていたといっていましたから、大変な火災だったと思います。父はお酒が好きでしたが、宇都宮に着くまで三日間、食べるものがないので、お酒をのんで生きていたといっていました。このたびの中越地震では新潟の酒蔵が壊れて、折角の銘酒が大損害だったということですが、関東大震災のときはお酒があったのでしょうか。

私どもの心ついたのはもちろん昭和に入ってからですが、小学校に入学したのが昭和六年(一九三一)、その年の九月十八日に満州事変(柳条湖事件)が起こり、私たち小学生は宇都宮の大通りに並ん

で、日の丸の小旗を振って出征する兵隊さんを見送りました。

中学校に入学した昭和十二年(一九三七)の七月七日に日中戦争が始まりました。本校も臨時兵舎となつて女学生たちは召集された兵隊さんが中国へ出発するまでお世話をしました。私の中学校の先生が出征し、宇都宮駅で盛大に見送りましたが、その二、三か月後には戦死され、その遺骨を迎えて、学

校葬が行われました。
中学五年(旧制)の卒業を間近に控えた昭和十六年(一九四二)の十二月八日に太平洋戦争が始まりました。その戦争が昭和二十年(一九四五)まで続いて、私自身が軍隊にとられて銃を執ることになろうとは夢にも思いませんでした。

私は、子供の時代から青春時代まで、十五年戦争のまさに戦中派です。国民は「欲しがりません勝つまでは」というスローガンで耐乏生活を送ったのです。

昭和二十年の七月十二日夜の宇都宮大空襲で本校の校舎は全焼してしまいました。今の宇都宮市役所から大いちょうまでのシンボルロードと東武電車の線路の間が本校の校舎と運動場でした。今はその校地の中に広い南大通りが貫通し、その片隅に私の自宅があります。

そして八月十五日、日本は全国が焼土となって、やっと戦争は終わりました。幸いにして私は無事に軍隊から戻ることができました。それからが本校と私の六十年の戦後が始まります。

戦災で全焼した本校は、陸軍の兵舎のあとを国から譲り受けて、現在地で学校が再開されました。軍隊から戻ったばかりの私は十月から本校の教壇に立ち、父校長や先生方、そして生徒たちと一緒に学校の復興に働きました。それから六十年、戦後の物資不足のなかで講堂を再建し、体育館を新築して、学校の体裁が整うまで大変でした。その木造の講堂や体育館も、今は立派な鉄筋校舎に再び建て替えられて、皆さんが毎日使っています。そしてこのたびは、隣地に六千坪の校地を拡張して、須賀学園教育会館が完成しました。

本校の歴史は創立百周年記念史の「ひかり輝く全人教育―須賀学園の百年―」にくわしく書かれています。その百年史の元になった資料は、終戦翌年の昭和二十一年度、用紙も満足になかった時代に創刊されたこの「ひめまつ」です。以来一年も欠けることなく毎年刊行され続け、この号で第五十九号となります。この生徒会誌「ひめまつ」の五十九冊には、本校の六十年の戦後の歴史が生徒のナマの声でいきいきと語られています。

私がいまこの原稿を書いている理事長室は、本館一階の生徒昇降口の隣りにあります。その窓の下をおおぜいの生徒の皆さんが元気のよい声で話しをしながらとおってゆきます。戦後六十年、私は若い生徒の皆さんと一緒に毎日を過ごすことができる幸せに感謝し、これからも本校の発展のためにがんばりたいと思っています。

論説

地域金融と新たな共生を

副校長 須賀 英之



足利銀行は公的管理下で、はじめての決算を昨年五月に発表しました。この決算では、貸倒引当金の計上や、貸し出し資産のオフバランス化、資産査定厳格さが焦点となった。これは、各取引先への資金供給の動向のみならず、受け皿銀行への経営移管の方向性を示すことになるからである。

株主責任論の是非や、金融不安解消の対策についての議論とは別に、「地域一番店」の地域金融機関に、今後どのような役割を期待し、そのためにどういう道筋をとるかについて、冷静に議論し、県民のコンセンサスを得る必要がある。

三つの機能の発揮望む

私は、「新銀行」に、北関東に強固な営業基盤を持って地域の事情に通じたリーディングバンクとして、「安全で便利な決済手段」「適正利ざやによる円滑な資金供給」「大手金融機関等との提携による幅広い金融商品やサービスの提供」、この三つの機能を効率的な経営により発揮できることを望んでいる。過去、外資系ファンドが新たに銀行を設立するのではなく、なぜ既存銀行の買収を行ってきたのか。また、ソニーやイトーヨーカ堂など、本邦系の新銀行が、なぜニッチなマーケットでしか勝負しないのか。それは既存の銀行に強固な組織と訓練された人材、そして長年それを支えてきた厚い顧客層があることがひとつの理由である。これこそが県民が守るべき大きな財産である。

日産自動車の例に見られるように、新経営陣が組織や顧客に対して、正しい方向と勇気を示すことによって、そうした財産は再活性化する。

厳格な資産査定を行い、企業の過大な設備と債務は処理して、有望な事業を再生させるとともに、店舗と人員を圧縮し、過去の経営責任を追及することは避けて通れない。私たち顧客や他の金融機関も、地域一番店への「甘えの構造」とは決別しなければならぬ。

再生は腰を据えて

しかし、出口をあまり急いではならない。地域の「企業と人」は、一度に大量の血を流せない。株価の上昇や地価の下げ止まりは、今後の企業の設備投資や、個人の消費拡大に追い風になる。多少時間を稼いで、痛みを軽減することにも経済合理性はある。

本年四月のペイオフ解禁後も、たとえ、しばらく国有銀行として残ったとしても、国は県民にこれだけの痛みを与えた責任として、経営を担っても良いと思う。優れた民間のノウハウにより、腰を据えて企業や地域経済を再生する王道に、きちんと取り組んでほしい。

二十一世紀は「共生の時代」といわれている。生態学の概念によれば、共生とは「独立した個体が、おたがいの生存に深く影響を与えあって生きてゆくこと」とされている。双方ともに利益を得る場合だけでなく、利害が対立しつつも、微妙にバランスを保っている状態もあるようだ。多様な個性の創造や持続可能な社会を導く鍵も共生にある。

先行き、楽観は許されないものの、経済再生の足音は確実に地方にも届いてくる。そのなかで、私たち県民と地域金融機関の新しい共生関係の時代が、着実に築かれることを期待している。

(本稿は、筆者が下野新聞客員論説委員として、論説欄「針路」に寄稿したものに補筆したものである。)



● 副校長略歴

昭和五十二年東京大学を卒業、日本興業銀行に勤務。人事部副調査役、産業調査部主任部員、本店営業部・業務部副部長などを歴任し、平成十二年須賀学園に戻る。現在、須賀学園副理事長、那須大学学長・宇都宮短期大学学長・同附属中学・高等学校副校長、栃木県私学審議会委員、栃木県産業教育審議会委員、栃木県産業再生委員会地域金融再生部会長などをつとめる。

特集

須賀学園教育会館がOPEN!



明日のリーダーを育てる、学園新時代!

宇都宮短期大学附属高等学校・中学校 第2グラウンドも完成!

緑あふれる公園から吹く風。

文教地区ならではの新しい教育環境の充実。

成長と実現の学び舎。

このたび本校では、隣接地の旧日本たばこ産業(株)宇都宮支店跡地を取得し、須賀学園教育会館および第2グラウンドを新設いたしました。

その目的は、生徒の自主学習の場の充実、進学指導の一層の強化、食堂(折々のイベントメニュー)の導入と、中学はテーブルバイキング方式の学校給食、グラウンド増設によるキャンパスライフの質の向上など、本校の教育理念である「全人教育」をさらに発展させようとするものです。

所在地

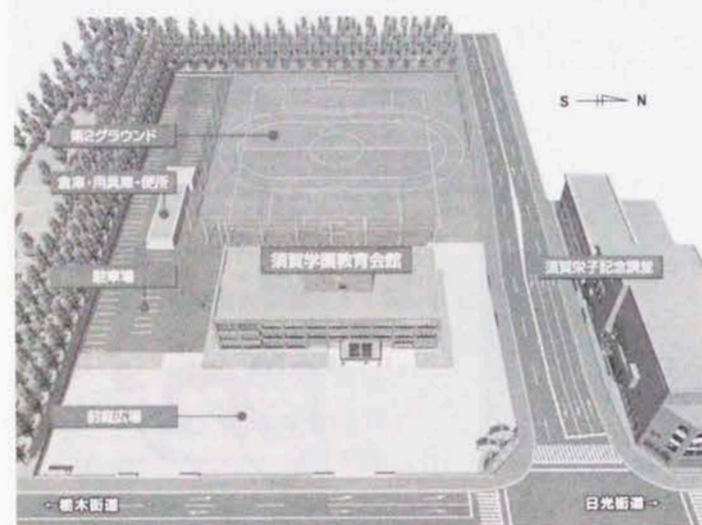
宇都宮市睦町一丁目
(宇都宮大附属中学・高校南側隣接地)
敷地面積 一八、〇二四^二m²
建物延床面積 四、八六八^二m²
地下1階 地上3階

教育会館外観



第2グラウンド

サッカーグラウンド、100m直線、200mトラック/体育の授業の他、課外活動やコミュニケーションワークの一環としてのレクリエーション活動を行います。



配置図



主要な施設

1F 生徒ホール

生徒の交流の場や、県内初の「地産地消」と「食育」を考慮したスローフードの新しい食感を楽しめるランチルームとしても活用できます。スープバー、サラダバーも充実した250席の新しい空間です。



1F 学園ギャラリー

総合学園としての本学の教育関連情報を提供します。(須賀学園、那須大学、宇都宮短期大学、宇都宮短期大学附属高等学校、宇都宮短期大学附属中学校)



都市を見つめる2つの視点
—那須大学ツインキャンパス体制

那須大学のニューフェイス

宇都宮シティキャンパス二〇〇五年開校！

那須大学都市経済学部は、経済をはじめ、環境・コミュニティ・文化など、都市に関わるあらゆるテーマを総

■概要■

所在地/宇都宮市大通り1丁目3番18号
(JR宇都宮駅から徒歩7分)
着工/平成16年10月16日
竣工/平成17年8月31日
設置者/学校法人 須賀学園
敷地面積/2,302m²
建築面積/1,003m² 延床面積5,794m² 地上7階建
施設内容/大講義室(230席、2室)
中講義室(126~84席、4室)
小講義室・ゼミ室(30~8席、7室)
情報教室(1室)、図書室
情報メディアセンター、地域共同研究室
学生ホール、多目的ロビー、学生広場

合的、学際的に研究教育する日本で唯一の大学です。
本学は、二〇〇五年九月、都市活性化に取組む宇都宮市の中心市街地に、都市経済学の研究教育拠点として、「那須大学宇都宮シティキャンパス」を開校することになりました。
宇都宮市は、北関東最大の内陸工業団地を有し、世界遺産にも登録された日光市や陶器で有名な益子町などのネットワークであり、商業、経済、産業、文化の一大中心地です。

このような環境に立地するシティキャンパスでは、学生たちは、直面する都市問題に触れ、一方、かけがえない自然に恵まれた那須塩原キャンパスでは、都市を客観的に見つめる「目」を養います。本学独自の、これらの教育目的に沿ったツインキャンパス体制を最大活用して、「環境共生都市」の理想を探求します。
また、「都市の中で学び、都市の中で研究する」姿勢を貫き、フィールドワークを積極的に実践して、新しいまちづくり、賑わいの創出にも貢献します。
さらに、学生にとっては現代的なマインキャンパスですが、地域社会にとっては、新たな交流・情報・文化発信の基地としてホスピタリティ・フィロソフィを指します。
那須大学宇都宮シティキャンパスは、都市問題を学び、二十一世紀の「都市のリーダー」を育てる「社会に開かれた大学」として、地域の「インテリジェンス・センター」を目指します。
★詳しい内容は、本誌「那須大・宇都宮大コーナー」をご覧ください。

[2F 生徒自習室]

300席のブースとDVDやIN検索用の最新型PC、2,000冊を越す進学関連書籍(大学進学・キャリアデザイン・資格取得・教科参考書・専門辞書など)を有する、自学自習に最適の進学サポート空間です。



[2F グループ学習室・中学ランチルーム]

総合学習の活動の場に最適。グループごとに研究や意見交換、コミュニケーションの場としても。



[2F 会議室(5室)]



[3F セミナー室(大・中・小計5室)]

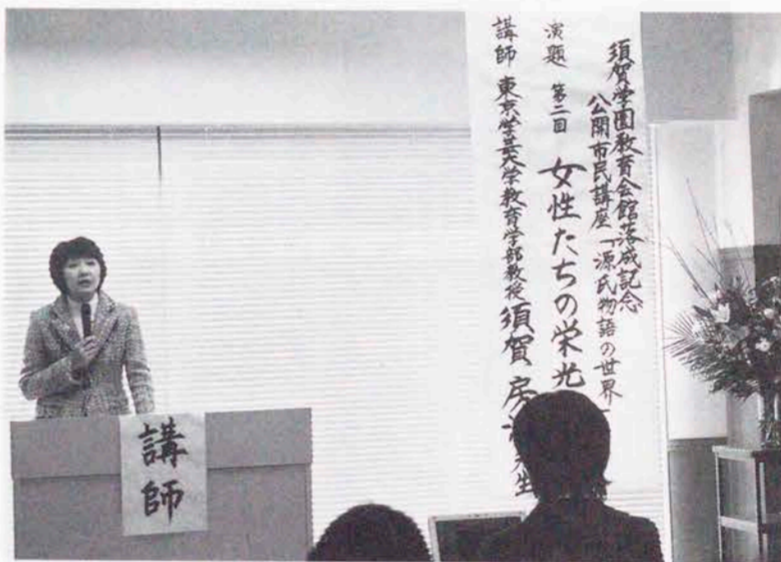
☆3Fセミナー室では、難関国公立・私大進学に向けた特別ゼミ(希望制)を実施する予定です。最新のIT・AVシステムを活用し、英・国・数の応用力を養います。また高大連携講座や保護者・一般社会人対象の公開市民講座を開講し、地域文化の向上にも貢献します。
☆この他に、オリジナルキャンパスグッズもある1F売店コーナー(生徒のインターンシップにより自主運営)、エントランス右手の生活教養科の生徒作品を中心にしたウィンドウ・ディスプレイや学園の歴史を紹介する2F校史室を計画中です。また、プラズマディスプレイによる情報提供、生徒の安全に配慮したセキュリティシステムが導入されています。

須賀学園教育会館落成記念公開市民講座
「源氏物語の世界」を公開

十一月六日(土)「学校祭第一日目」と二十日(土)の計二回にわたり、須賀学園教育会館の落成を記念して、教育会館三階のセミナー室を会場に、「源氏物語の世界」をテーマにした公開市民講座が開かれました。講師は、東京学芸大学教育学部教授の須賀房江先生で、先生は、那須大学長・宇都宮短期大学長の須賀英之先生(附属中学・高校副校長)の奥様でもいらっしゃるようです。

第一回目は「光源氏が負う光と影」と題して、光の喩をまわって物語史に登場した超越的人物である光源氏の、愛と権力の勝者として描かれる人生にまつわる光と影について考察しました。また、第二回目は、「女性たちの栄光と苦悩」と題して、光源氏の愛の対象となった中心的な女性たちである藤壺・紫の上・女三の宮が、光源氏に愛されたために味わう栄光と苦悩の人生について深く追求しました。最新のス

ライドショーを駆使したこの講演会では、いずれも定員五十名をはるかに上回る多くの皆様をお迎えし、世界的な物語文学である『源氏物語』から、愛と権力のはざまに苦悩する権力者や女性たちの人生模様を手がかりに、人として女性としてどう生きるべきかを学ぶことができました。



須賀学園教育会館落成記念公開市民講座「源氏物語の世界」
第一回 女性たちの栄光と苦悩
講師 東京学芸大学教育学部教授 須賀房江先生

二〇〇五年四月
宇都宮短期大学音楽科に
三つの専攻コースを新設!

宇都宮短期大学音楽科に平成十七年度から、これまでのピアノ・声楽・管弦打楽器・電子オルガン等の各専攻に加え、音楽療法士、音楽IT、音楽福祉の新しい三つの専攻コースが新設されることになりました。この三専攻コースでは、ホームヘルパー養成の所定の科目を履修して、ホームヘルパー(二種)の資格を取得することができます。

また、音楽科の各専攻コース(音楽療法士を除く)では、教職科目を履修して中学校教諭二種免許状(音楽)を取得することが、さらに、音楽療法士専攻コースでは、全国音楽療法士養成協議会の音楽療法士(二種)の称号を取得することも可能です。

★詳しい内容は、本誌「那須大・宇短大コーナー」をご覧ください。



平成十六年度 高等学校交通問題地域連絡協議会活動報告

宇都宮地区幹事校 宇都宮短期大学附属高等学校

報告者：交通安全委員会

顧問 中嶋 保行

1 活動内容

- ① 春の交通安全県民ぐるみ運動セレモニー
交通安全誓いのことば
平成十六年四月五日(月)
二荒山神社前
■ 本校生徒代表二名参加
- ② 第1回 高校生の交通問題を考える会
平成十六年六月十七日(木)
宇都宮短期大学附属高等学校 須賀栄子記念講堂
■ 参加生徒 十四校 四十五名
・ 宇都宮地区交通問題地域連絡協議会概要・予算
・ 十五年度の活動報告
・ 十六年度の年間活動計画案
・ オリオン通り自転車問題

第1回 高校生の交通問題を考える会



▲ 第1回高校生の交通問題を考える会 (6/17)

▲ スタッフの全て
平成16年度交通安全委員 役員 9名
記録係 2名



③ 第2回 暴走族追放市民の集い

平成十六年七月十四日(水)
宇都宮市東コミュニティセンター
※ 代表生徒が壇上に上がりパネラーとして率直な意見を交わした。暴走族の実態や取締りの状況、交通事故の危険性についての報告を受け、身近な市民生活における暴走族追放の意識が高まった。



▲ 第2回 暴走族追放市民の集い (7/14)

- ④ 第2回 高校生の交通問題を考える会
 平成十六年七月十四日(水)
 宇都宮市東コミュニティセンター
 ■参加生徒 十四校 六十三名
 (上記イベントと同日開催)
 ■十六年度スローガン決定
 「考えよう 命の重さと 交通問題」
 宇都宮北高等学校



第2回高校生の交通問題を考える会 (7/14)

- ⑤ 街頭活動
 平成十六年九月二十二日(火)
 二十二日(水)
 二十四日(金)
 ■参加生徒 十四校 七十名
 (上記三日間に割り振り)
 【オリオン通り】
 ・アンケート
 ・ペンセット配布
 ・自転車反射シール配布
 ・自転車通学者に対しマナー向上呼びかけ
 ・その他



街頭活動(九/二十一・二十二・二十四)

対策課・市自治振興課・市交通対策課・バイコロジ協議会・オリオン通り商店街などの協力を得て実施しました。各生徒も限られた時間の中で、役割に従い積極的に啓発活動を行いました。市内中心部で行なった活動はアピール性も高く、交通安全の意識付けを図れたものになり効果もあった。一般の方々からのねぎらいの言葉が生徒たちに大きな励みとなり、日を迫うにつれ自分たちの目で見て活動の趣旨が徐々に浸透していくのが感じられた。

- ⑥ 交通管制センター見学(シンポジウム)
 平成十六年十一月十八日(木)
 栃木県警察本部内
 ■参加生徒 十二校 四十五名
 (班別に分かれて見学)
 ■交通安全講話
 (担当・設楽照夫 川上俊之 今井美和)
 ・ビデオ聴講
 ・「交通管制センター内部見学」
 ・「通信指令課見学」



▲交通管制センター見学 (11/18)

※参加生徒はA班・B班に分かれて施設見学を行なった。特に交通管制センターにおいては、普段は立ち入りができない内部まで見学させていただき、県の交通システムの充実を目の当たりに感じることができた。また、通信指令課見学においては、110番通報の数の多さとその後の迅速な対応に、改めて警察の仕事の厳しさを感じた。

2 今後の課題について

一昨年、マスコミによる報道でオリオン通りにおける自転車マナーが問題になり、それに伴い県・市の緊急課題となり、警察関係も重点項目として取り上げるようになった。高校生の交通問題の一つと考えたとき、この会においても避けては通れない内容と判断し、年度当初より議題に取り上げ全体で取り組もうとする体制を整えた。その結果、オリオン通り周辺における交通事故件数の減少をはじめ、マナーについても改善されたが、今後の課題としては、この先の取り組みをど

うしていくか不透明な状態であり、今年度と同じ活動ではいかかという疑問を感じる。根本的な解決を図るためにさらに一歩でも前進することが望まれる。

3 保護者や地域関係機関等の連携について

保護者との連携については、実際のところ直接的には実現できなかった。関係機関との連携については、本年度も宇都宮市市民生活部自治振興課・宇都宮中央警察署交通課・栃木県教育委員会学校教育課・栃木県企画部交通対策課・栃木県バイコロジ協議会等、年間の諸活動においてご協力をいただき、十分な成果をあげることができた。

4 学校における他の生徒への係わりについて

(1) 啓発方法
 委員会活動・生徒会・自転車通学者全体指導・交通講話・各クラスL

HRなどの機会を利用して、本協議会活動趣旨・内容を説明し校内においても生徒一人一人に浸透していくよう指導を行った。

(2) 活動趣旨の浸透

活動のたびに委員会を開催して趣旨内容を説明し、各クラス交通安全委員を中心に浸透を図った。また、毎月の交通標語(生徒自作による)ポスターを校内に掲示し、目で見て訴える活動も同時展開した。

(3) 他の生徒へ啓発するときの課題について
各クラスにおいて交通安全委員が発言をする機会を担任がつくづくれているかどうか。また、担任としては生徒へ連絡する時間の確保の問題。校外における活動にできるだけ多くの生徒を参加させることが効果的であると感した。

(4) 先生方の本協議会趣旨理解について
年度当初の職員会議を通じて本議会内容について説明し、共通理解を図った。幹事校を務めるにあたり交

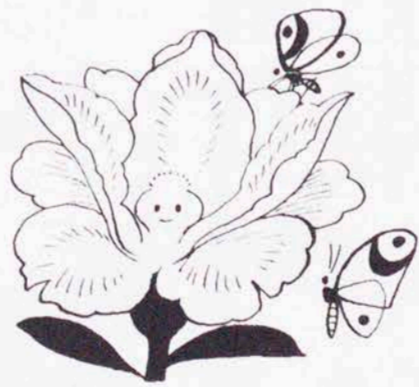
通安全委員会を立ち上げ、新鮮な感覚として伝わった。

(5) 啓発方法について

交通標語校内募集・毎月のスローガンの決定とポスター校内掲示(至HR)

5 活動の感想

前年度幹事校からの文書上の引継ぎが徹底していたこともあり、なんとか初めての幹事校としての責任を果たすことができました。校内においては公務と平衡して関係機関とのやりとりの中で、一つ一つを企画をしていくのに非常に困難な時期もありましたが、関係職員とともに、やる気に満ちた本校交通安全委員の代表生徒たちに活力をもらい、なんとか予定内容を消化できたように思います。また、外部においては関係機関のご協力や各高校のご協力なしでは成し得なかったことは言うまでもありません。お忙しい中、ありがとうございました。苦勞も多かった分、生徒たちの心に良き思い出として残ってくれた様子であり、今後、宇都



宮地区の高校生の交通問題がよりよく解決していくことを期待したいと思います。

★なお、この記事は、平成十七年一月二十一日(金)に栃木県教育委員会で口頭発表・報告した内容に、一部加除訂正を加えたものである。

明るく活発な生徒会を目指して

—— 新生徒会長に就任して ——



この度、皆様方からのご支持をいただき、平成十七年度の生徒会長という大役を任されることになりました。

昨年度私は、生徒会副会長として、役員の方々と共に活動をしてまいりました。ですが、先輩方の的確な指示がなければ、慣れない生徒会活動の中で、会長をサポートをしていく事は難しかったように思います。

しかし、私は今、生徒会長という立場にあります。これまで先輩方が行って来たように、他の生徒会役員をはじめ、全校生徒の皆さまをリードしていかなければなりません。そこで、先輩方や顧問の先生方についても甘えた気持ちを持たずに、生徒会長として自覚と責任ある行動を、一日でも早く取れるよう努めていこうと思います。そして、新役員の方々と一人一人が、積極的に、また、楽しみながら活動しているような生徒会をつくっていきたくと思っています。

さて、その活動内容ですが、従来の大きな行事として、「スポーツフェスティバル」と「学校祭」があります。私たちは、それらの行事の企画・準備から運営などをすべて行っています。特に平成十七年度は、学校祭ではなく、体育祭(中高合同での大運動会)を行うことになっており、三年に一度という大イベントをどのようにして盛り上げようかと、今から思案しています。

その他生徒会では、たくさんのボランティア活動を行ってきました。最近のものでは、「難民救済活動」や「新潟中越地震災害」の募金活動といったものです。また、昨年度に引き

新生徒会長

越 沼 梓

続き、プライベートカード、書き損じハガキ、使用済み切手の回収などに加えて、もう着られなくなった衣類や、未使用の文房具、セッケン、タオルといった生活物資等を校内で集めて、世界中のめくまれない人々や、大きな災害を受け、困っている人達に寄付してみようかと考えています。高齢化が加速度的に進む現在は、「福祉」の時代でもありません。そこで私は、少しでも多くの人に福祉の大切さを知ってもらいたいと考えています。そのために、福祉が今とても必要とされていて、私たちの身近にあるのだというPRを、積極的に行っていきたくと思っています。

さて、最後となりましたが、生徒会長に就任して、これまで以上のプレッシャーを感じておりますが、支持して下さいました皆さま方の学校生活が少しでもより良いものとなるよう、精一杯努めてまいりますので、どうぞ温かく見守っていただきたいと思います。

そして、役員である先輩方には本当に感謝しています。これまでの生徒会活動に、積極的にまた楽しく参加することができたのは、先輩方のおかげだったのだと、今改めて実感しているところです。先輩方が残して下さった多くのものを受け継いで、役員の方々と共に協力し合い、笑顔の絶えない、活気に満ちた生徒会を目指していきたいと思っております。また、これから私と活動を共にする役員の方々と、全校生徒の皆さまにはご迷惑をおかけするかもしれませんが、ぜひ全力でご協力下さい。そして顧問の先生方、これからもご指導の程、よろしくお願いたします。

学園告知板

須賀英之・副校長先生が 宇都宮短期大学の新学長に！

宇都宮短期大学の新学長に、学校法人須賀学園副理事長・那須大学学長の須賀英之先生が就任されました。先生は、同附属中学・高校の副校長職も兼任されます。

在仏の草月流コーディネーター(本校生が) トークショー！

七月十七日(土)午前九時から本校の須賀栄子記念講堂大ホールで、生活教養科・情報商業科・調理科・音楽科の生徒七〇名を対象にした特別講演会が開催されました。講師は、現在、フランスのバリを拠点に生け花(草月流)のデモンストレーションやコーディネーター

普通科二・三年生の希望者が、 夏季ブリテッシュ・ヒルズ語学研修に参加！

七月十八日(日)から二十日(火)までの二泊三日の日程で、福島県岩瀬郡にあるブリテッシュ・ヒルズで、普通科二年生と同応用文理科三年生

(英語進学専攻選択者)の希望者を対象とした夏季語学研修が行われました。これは、本格的な留学疑似体験施設での合宿研修を体験することにより、英語の実践的コミュニケーション能力の体得や大学受験への動機付けをはかることなどを目的として、本校では今回初めて実施されたものです。

福島県羽鳥自然公園の森に位置する73,000坪の広大な敷地は、実に東京ドームの約五倍！十二世紀から十八世紀にかけての中世英国様式を忠実に再現した町並みと建物に、参加した生徒の皆さんは大喜び。また、教職員はすべて外国人の方がかりなので、日本語は通じません。館内アドベンチャーゲームやイレックスン九十分の本校オリジナルプログラムを六講座、食事はすべてビュッフェ形式という完全な英国スタイルの中で研修を積んだ生徒の皆さんには、これからTOEIC受験で学習効果の腕試しが待っています。

男子バスケット部の岩崎君が、 日韓交流の遠征試合に！

八月十一日(水)から十四日(土)の日程で、普通科進学コース(文系)三年の岩崎ミツシエル・アンジェロ君(茨城県結城東中学校出身)が、文部科学省主催・日韓スポーツ交流事業の一環として行われた韓国への遠征試合に参加してまいりました。すでに、平成十六年度国民体育大会のバスケットボール少年男子・栃木県代表に選出されている岩崎君は、信一高校など主にソウル市内の高校との交流試合を行い、日韓両国の国際交流とスポーツの振興に貢献！八月二十八日(土)二十九日(日)の二日間にわたって神奈川県横浜市で実施される国体関東予選でも大活躍をされました。

NZマヌカウ市への派遣高校生が帰国！

普通科進学コース(文系クラス)二年の紀菲菲さんが、このたび、七月十二

日(月)から八月二十八日(土)まで計四十八日間にわたりニュージーランドのマヌカウ市で行われたホームステイから、国際交流の大きな成果をたずさえて帰国されました。これは、宇都宮市と同国際交流協会主催の平成十六年度姉妹都市交流事業の一環として行われたもので、市内十一の高校、計十九名の中から選ばれた八名の皆さんとともに参加した今回のプログラムでは、ホームステイや現地での学校生活を通して、マヌカウ市の人々やNZの文化に触れたり国際感覚を磨いたり、立派に姉妹都市交流の推進役をとっめあげることができたようです。

フランスからロータリー留学生が来校！

国際ロータリーの交換留学生として、九月一日(水)から約十ヶ月間の予定で、セバステイン・ファベール君が本校の普通科第二学年・中高一貫特進クラスに在籍することになりました。ファベール君は、フランスのバスライ地方出身の十八歳。現在、マルセル・

リュドロフ高校で第一言語に英語を、第二言語にドイツ語を、第三言語に日本語を専攻中の男子高校生です。趣味は音楽で、得意な楽器はピアノとクラシックギター、将来はコンピュータ関連の仕事に就くのが夢だそうです。

生活教養科三年生が 「とちぎファッション」の冬服デザイン！

このたび、生活教養科三年生が、平成十六年度「とちぎファッション」の冬服デザイン・製作を担当し、マロニエプラザで開催中の「ふるさと栃木フェア2004」(主催・ふるさと栃木フェア実行委員会)で十月二十三日(土)午後一時からステージ発表しました。(本誌巻頭グラビア「学園の四季」も、併せてご覧下さい。)これは、毎年新春恒例の「いちご祭り」における本校のファッションデザイン発表の成果から、とちぎ農産物マーケティング協会(県農務部所管)より製作依頼を受けて行われたもので、昨年度に引き続き今回で二年目の製作！本県農

産物のブランドイメージにふさわしい「気品とみずみずしさ」を表現したデザインが、校内応募二〇〇点の中から選考されました。今後、全国各地で開かれるイベントやキャンペーンなどで、コンパニオン二名のうち一名は、宇短大人間福祉学科一年の熊田未希さん。写真左。とともに「とちぎブランド農産物」のイメージアップと効果的な普及をはかってまいります。栃木の特産品いちご「とちおとめ」をイメージした衣装に、どうぞご期待ください！

なお、この衣装は、教育会館1F正面エントランス右手のディスプレイコーナーで、三月末まで展示していますので、ぜひご覧下さい。



本校調理科卒業生・直井朋之さんが、今秋から「味の外交官」に！

二〇〇〇年三月に本校調理科を卒業された直井朋之さん（小山市立乙女中学校出身）が、このたび「味の外交官」と称される公認料理人として、英国在エディンバラ日本国総領事館に赴任することになりました。任期は二〇〇四年九月からの三年間。TVでおなじみ、東京浅草の有名西洋料理店「大宮」で若手ホープとして修行をしていましたが、今回の赴任が決定してからは、得意のフランス料理のほか、寿司店に通い和食の研鑽も積まれたという直井さん！世界の大舞台での活躍に、どうぞご注目ください。



3-10 桜井祥子

饗庭史祥君が、将棋で栃木県No.1に！



このたび九月二十五日（土）と二十六日（日）の二日間にわたって栃木県教育会館で行われた第十五回関東高校将棋選手権大会栃木県予選会で、普通科進学コース一年の饗庭史祥君（河内町立古里中学校出身）が優勝！十二月に東京の日比谷高校で行われた関東高校将棋選手権大会への出場権を、みごと獲得することができました。

小学校2年生からのキャリアをもつ饗庭君は、現在、日本将棋連盟今市支部に所属。目標とする棋士は、スバリ羽生善治名人・竜王だそうです。饗庭君のこれからの活躍に、ご声援をよろしく願います。

栃木県初！音楽科三年の谷田部君が、大阪国際音楽コンクールで第二位に！



十月十七日（日）に大阪府で開かれた第五回大阪国際音楽コンクールで、音楽科三年の谷田部響君（宇都宮市立宝木中学校出身）が、初出場ながら、高校生の中でみごと第二位の栄冠を獲得しました。これは、栃木県としては、史上初の快挙です。最終審査で、アルゼンチンの作曲家ヒナステラの「ソナタ第一番・作品22」を曲想豊かに熱演した谷田部君は、十五年に及ぶピアノ歴をさらにかし、来年三月からバリのエコー・ノルマル音楽院に入学する予定。世界にはばたく実力をつけたいピアノリストとしてのステージに、大きな期待を寄せたいものです。

本校を会場にスローライフ運動推進事業「食談会」を開催！

昨年の二月十七日（火）午前十時から本校の須賀栄子記念講堂や調理室をメイン会場として、栃木県商工連合会・主催のスローライフ運動推進事業「食談会」が開催されました。これは、日本、中国、西洋料理の各調理師会長が「地産地消」をテーマに栃木県産の食材を使ったオリジナル料理を披露し、これを参考に県内の各料理店が栃木県産食材を使ったおいしい料理を作成し、新たな顧客の発掘や観光客誘致の一助とするほか、町おこしや地域の活性化を図ろうというものです。当日は、本校生活発表会の代表生徒によるスローフード研究発表や音楽科生徒の皆さんによる演奏発表、調理科オリジナルの牛乳を使ったデザート作成提供等、多彩な関連イベントが行われました。



とちぎ地産地消県民運動「キャッチフレーズ大賞」を受賞！

十月十八日（土）午後一時三十分から宇都宮グランドホテルで行われたとちぎ地産地消県民運動実行委員会主催（会長は福田昭夫前栃木県知事）の「とちぎ地産地消の集い」で、本校普通科特進コース三年の宮本裕香さんがキャッチフレーズの部で、大賞受賞の表彰を受けました。

受賞作品は
「広げよう 口いっぱいにとちぎのかおり」

応募総数九五五点のトップに立つ名文句ですが、「祖父母が家庭菜園で育てたナスやキュウリの漬物がとてもおいしくて、そんなことを思っていたら、ほんと浮かんできました。」と宮本さん。「栃木の豊かな自然をみんなが思い、地元の農産物に目を向けてもらえたらうれしいです。」とコメントを述べられました。

昨年九月にオープンした本校の教育会館1F生徒ホールも、「スローフー

ド」がメインテーマの新しい「食育」空間です。生徒のみならずも、ぜひ積極的に利用してみましょう。

とちぎ地産地消の集い

主催／とちぎ地産地消県民運動実行委員会



「小麦フェスタin宇都宮」で生活教養科の二年生が特賞に！

「栃木の小麦は土地技（とちぎ）の恵み」のキャッチフレーズで、十一月七日（日）午後一時から宇都宮グランドホテルにおいて第三回栃木小麦フェスタin宇都宮（栃木小麦フェスタin宇都宮実行委員会…主催）が行われ、栃木県産小麦を使用したアイデア料理コンテストの最終審査で、入賞作品に二名、入選者に九名の本校生徒が選ばれました。

そして、みごと応募総数二〇二名の頂点に立ち、栃木県農務部長賞をいただいたのが、「中華風エビすいとん」をつくった生活教養科二年の津布久有利枝さん（栗野町立旧清洲中学校出身、また「豆腐すいとんの豆板醬炒め」でJA全農とちぎ県本部賞を受賞したのが同二年の加波沢祐乃さん（高根沢町立阿久津中学校出身）です。「地産地消」と「スローフード」のあり方が注目される今日、栃木県産の良質で安全な小麦を使った料理に、皆さまもぜひ

挑戦されてみてはいかがでしょうか？

栃木県産の小麦をアレンジした 麦ちゃん特製 土地技の恵み スペシャルランチ



お肉の料理コンクールで、生活教養科三年生が第三位に！

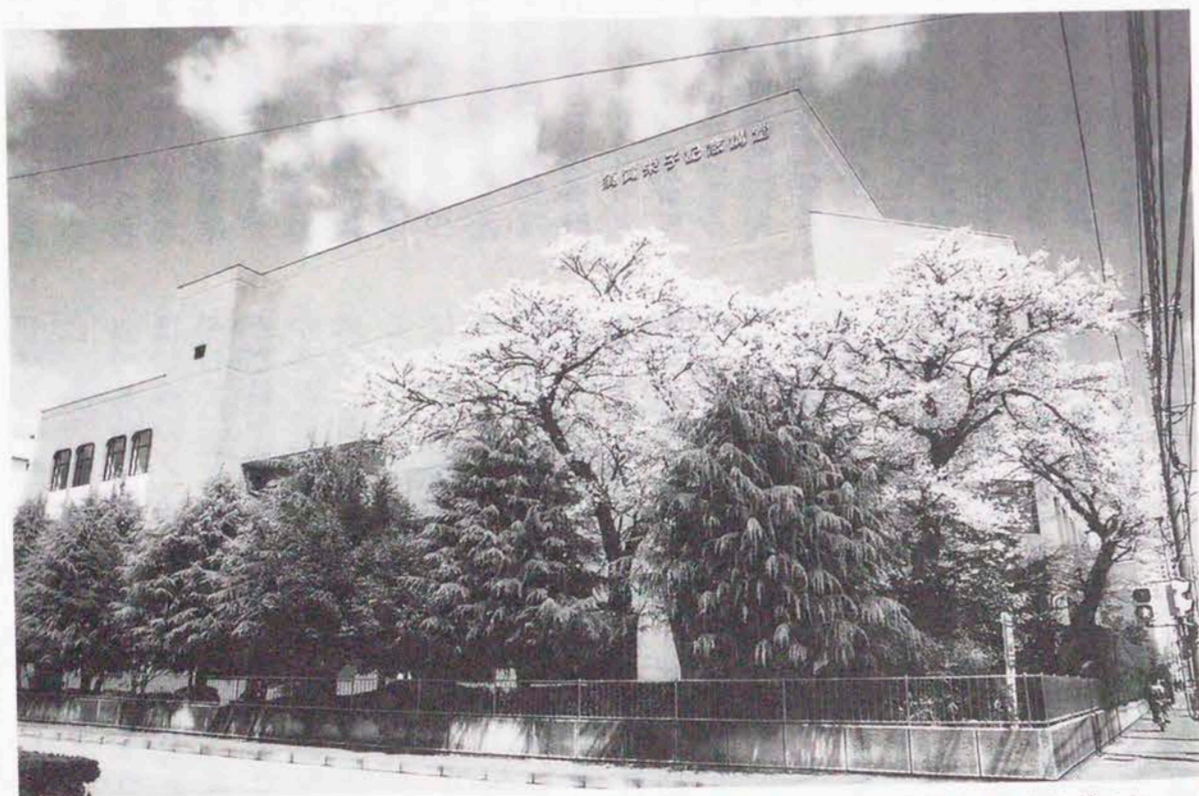
十一月十日（水）午前十時から宇都宮市総合コミュニティセンターで行われました「第十一回お肉の料理コンクール栃木県大会」（栃木県食肉事業

協同組合連合会…主催）で、生活教養科三年の石田真央さん（真岡市立真岡西中学校出身）が、みごと第二位の栄冠を獲得することができました。石田さんの入賞作品は、牛モモ肉をメインの食材にした「ビーフ☆ガーリックライスボール」です。その他、応募総数一八七点の中から厳選された努力賞に、調理科の生徒三名と生活教養科の生徒一名が入賞！新鮮で安全な国産食肉をつかった新しい感覚の肉料理に、皆さまもぜひ挑戦されてみてはいかがでしょうか？

調理科三年生が、新・高校クッキング選手権「味部門」で第一位に！

十一月二十九日（土）に月島社会教育会館（東京都中央区月島）で行われた「平成十六年度 新・高校クッキング選手権決勝大会」（新・高校クッキング選手権実行委員会…主催）におきまして、調理科三年の小倉康平君（大平町立大平南中学校出身）と加藤弘祐君（宇都宮市立星が丘中学校出身）の二

人が、「味部門」で全国第一位を受賞しました。出品作品の「エスニック・ザ・ワールド」は、世界各国の料理をエスニック風にアレンジしたオリジナル！この選手権の模様は、本校の学校紹介とあわせて、二〇〇五年一月十日（月・成人の日）にTV朝日系列でも放映されました。



▲道路拡張のため姿を消した桜の大樹は、本学園発展の歴史をずっと見つめ続けていたはず。 (平成 16年 4月)

校史と校章

平成16年は、ミレニアム(新1000年紀)21世紀の4年目にあたります。本学園は、昨年11月3日で創立104周年の記念日を迎えました。平成11年4月に全国初の都市経済学部をもつ那須大学が開学して6年目、また平成14年4月に新設された普通科・応用文理コースも3年目を迎えることができました。さらに、昨年の9月には、新校地として、現校地の南隣に教育会館と第2グラウンドが新設され、本学園の教育環境の拡充がはかられました。

思えば、本学園は明治33年(1900年)に須賀栄子先生によって創立されました。栄子先生は、女子に最も喫緊な技芸を教授され、その時代と境遇に順応すべき実践的婦人の養成を本学教育の趣旨となし、共和裁縫教習所から明治34年共和裁縫女学校、大正13年宇都宮須賀女学校、昭和7年宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、学校を発展させてゆかれました。その後を第2代校長の須賀友正先生が受け継がれ、昭和21年須賀高等女学校、同23年学制改革により宇都宮須賀高等学校と校名変更をし、さらに同42年宇都宮短期大学(音楽科)を新設し、高校も宇都宮短期大学附属高等学校と改名されました。

その友正先生の後を引き継がれたのが、第3代目現校長の須賀淳先生です。先生は、昭和58年宇都宮短期大学附属中学校(中・高6か年一貫教育)を併設され、那須大学開学、短大の学科増設、教育会館および第2グラウンド新設と、ますます学園を発展させ現在に至っています。

本校の生活目標である「一人は一枚を代表する」という言葉の意味は、本校生徒一人一人が、それぞれに自らの価値を知り、その価値を自覚して生活することこそ人間の大きな喜びにつながり、幸福への第一歩にもなるというものです。ここには、創立者須賀栄子先生が掲げられた「全人教育」の精神が、100余年変わらずに脈々と生きづいています。

また、現在に至るまで、本校にはいくつかの校章がありましたが、現在の校章は、カタカナの「ス」を3個組み合わせで図案化した須賀家の合印で、その中央に「高」の文字が挿入されています。(合印とは、いわば目印のようなもので、昔戦場で敵味方が入り乱れて戦うとき、その腕につけさせ、敵か味方かが見分けられるようにしたものです。)これは、須賀家の家系譜から第2代目校長須賀友正先生が校章と定めたもので、文字は金色、生地は純白色ですっきりとしていて、いかにも清純な感じのする校章です。現校旗と同じ、昭和34年11月3日に、創立60周年記念事業の一環として制定されました。